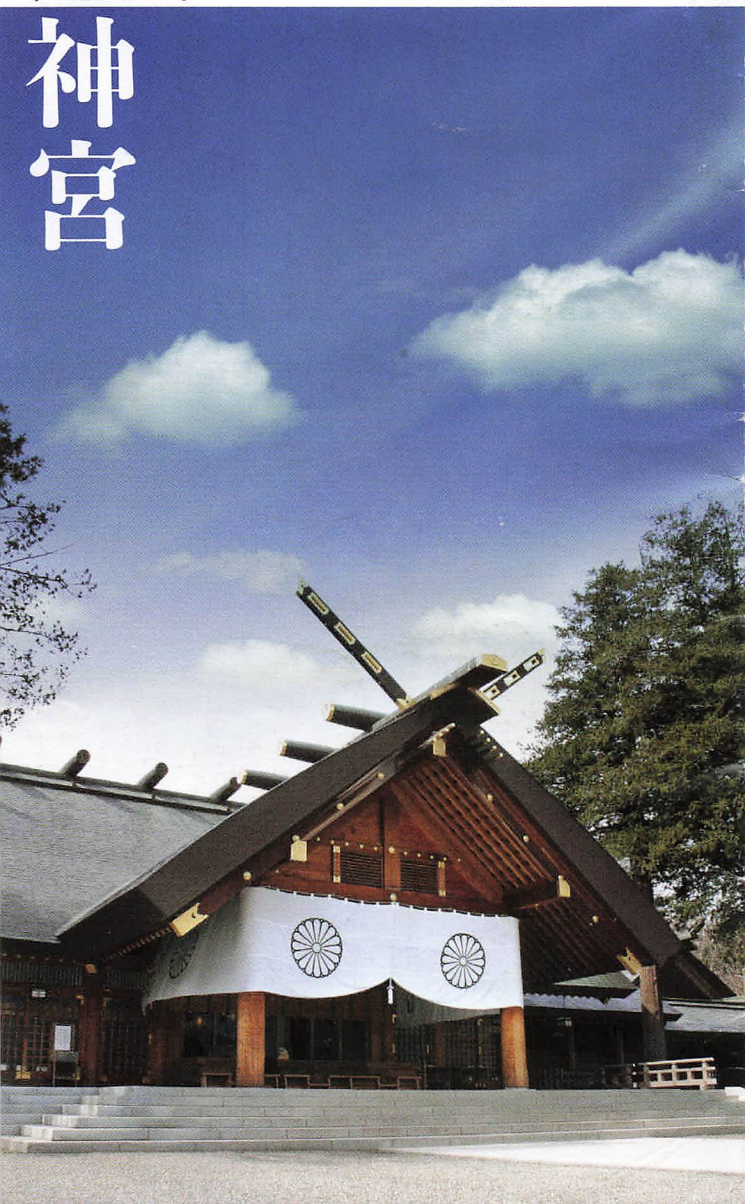


北海道總鎮守

北海道 神宮



由緒

北海道の開拓・経営を行うために、明治二年七月に開拓使が設置され、同年八月十五日には蝦夷地は北海道と改称されました。

同年九月一日に東京の神祇官において、開拓使の長官以下の北海道への赴任に先だち、明治天皇の勅旨により開拓の守護神として大國魂神・大那牟遲神・少彦名神の三神を祀る「北海道鎮座神祭」が斎行されました。これが北海道神宮の創祀とされます。同月二十一日、三神の御霊代は開拓長官東久世通禧に奉じられ品川港から函館に到着、ここから開拓判官島義勇がこれを奉じ銭函の仮役所に仮安置し、同年十二月三日、札幌に入り、現在の北二条西二丁目の「札幌第一番役宅」に御霊代を奉遷しました。

明治三年五月十五日に現在の北五条東二丁目の仮社殿に



遷座し、「二の宮」「勅祭社」とよばれました。明治四年五月十四日「札幌神社」と社名が定められ、社格は国幣小社に列し、同年九月十四日には、この円山の地に社殿が完成し、開拓判官岩村通俊が祭主となり遷座祭がおこなわれました。翌明治五年に官幣小社に昇格し、同年二月二十五日に例祭日が毎年六月十五日と定められました。

社格は北海道の発展とともに高まり、明治二十六年には官幣中社に昇格し、開道三十年をむかえた明治三十二年には官幣大社に昇格しました。大正二年、それまでの仮社殿は改められ、伊勢神宮御正殿の古材の下附により造営されました。昭和三十九年十月五日、明治天皇が御増祀となり、北海道神宮と改称されました。

北海道神宮は、北海道の開拓・経営を守護するために、明治天皇の思し召しによって北海道の地に祀られ、その発展とともに北海道総鎮守として人々に崇敬され、今日に至っています。





御祭神

北海道神宮には、
四柱(よはしら)の神様を
お祀りしています。

※神様を数える時、

一人、二人…ではなく、
柱(はしら)と数えます。

大国魂神

おおくにたまのかみ

北海道の国土の神

大那牟遲神

おおなむちのかみ

国土経営・開拓の神、
大国主神と同神

少彦名神

すくなひこなのかみ

国土経営・医療・酒造の神

明治天皇

めいじてんのう

近代日本の礎を築かれた
第百二十二代の天皇





明治二年、明治天皇は開拓

おおくにたまのかみ

おお

の守護神として大國魂神・大

なむちのかみ 那牟遲神・少彦名神の二神を

開拓使に御託しになりました。

札幌本府建設の命をうけた開

拓判官島義勇は二神の御霊

しまよしだけ

みたま

代を自ら背負って険難の陸路

を踏破し三神を鎮齋する社地

を円山に定めました。そして

新大社創営の大計を樹立し、

今日の札幌の礎を築きました。

銅像は往時の勇姿を再現した

ものです。

ものです。

祭事



入学祭



御田植祭



夏越の大祓



開拓神社例祭

毎月一日

月首祭げつしゅさい

併せて吟詠講々員の誕生祭と吟詠の奉納を行う。

毎月十日

旬祭しゅんさい

併せて敬神婦人会々員の誕生祭を行う。

毎月十五日

月次祭つきなみさい

併せてむすび会々員の誕生祭を行う。

毎月二十日

旬祭しゅんさい

併せて札幌興風会(短歌の会)の献詠祭を行う。

一月一日

歳旦祭

六月十四日 宵宮祭

一月三日

元始祭

六月十五日 例祭

一月七日

昭和天皇祭遙拝

六月十六日 渡御

一月十四日

古神札焼納祭

六月三十日 夏越の大祓

第三又は第四日曜

祈請祭

七月三十日 伏見桃山陵遙拝

二月節分

節分祭

八月十五日 開拓神社例祭

二月十一日

紀元祭

九月一日 御鎮斎記念祭

二月十七日

祈年祭

九月中旬 抜穂祭

二月二十三日

天長祭

九月第三日曜日 頓宮例祭

春分の日

皇霊祭遙拝

秋分の日 皇霊祭遙拝

三月下旬

入学祭

十月十七日 神嘗奉祝祭

四月三日

神武天皇祭遙拝

十一月三日 明治祭

四月中旬

島判官顕彰祭

十一月二十三日 新嘗祭

四月二十九日

昭和祭

十二月三十一日 師走の大祓

五月初旬

田植祭

十二月三十一日 除夜祭

※年間恒例祭典にはそれぞれ祭祀舞が奉奏され巫女舞の「豊稔の舞」、「浦安の舞」、「悠久の舞」、御神楽「其駒」、舞楽「蘭陵王」、「還城楽」、「迦陵頻」などが奏されます。



札幌まつり

当神宮の神様は、現在の場所にお鎮まりになられてより道民の皆様への心よりどころとして仰がれ、札幌さらには北海道の発展を見守られてこられました。その神様の恵みに対して市民こそぞって感謝し、六月十五日を例祭日を定め、平安を祈られてきた祭りが「札幌まつり」です。

鳳輦（神輿）の渡御は、明治十二年に「御鳳輦を市中にお迎えたい」という市民の願いが叶い、毎年、市民の手で渡御を行うことになり、今日まで受け継がれてきました。

最初の渡御は円山崇敬講と各区の世話人が中心となり、やがて祭典を年番で奉仕する祭典区が各地区ごとになり、大正十五年には全市民を講員とする「敬神講社」が発足し、今日の市民総参加の敬神講社と祭典区制度が確立しました。

境内社

◎開拓神社

開拓に幾多の困難を克服して北海道発展の基礎を樹立された先人達の遺徳を偲び、その功績を称え、昭和十三年開道七十周年に時の北海道庁長官石黒英彦によって創建された。戦後、北海道神宮がお預りし、祭祀を行っている。昭和六十三年鎮座五十年をむかえ新たに拝殿が造営された。開道百五十年を迎えた平成三十年には、開拓神社の御鎮座八十年を機に社殿をあらたにした。

御祭神

武田信広命 松前慶広命 佐藤信景命 村山伝兵衛命 松田伝十郎命 本多利明命 伊能忠敬

◎ 鉦霊神社

こうれい
鉦 鉱業従事者の殉職者を奉祀する神社。

◎ 穂多木神社

ほたき
北海道拓殖銀行に永年勤務功労のあった物故役職員を祀る。

頓宮

とんぐう

明治十一年、現在地に遙拝所を建立して住民は、ここから札幌神社を遙拝していた。また本社例祭には神輿の御旅所とされていた。明治三十四年失火により全焼したが、明治四十三年本社の大造営により旧材をもって現在の社殿が再建され頓宮と称された。昭和二十二年九月三十日に本宮の御分霊を奉斎して末社となった。

〒〇六〇・〇〇五二

札幌市中央区南二条東三丁目

TEL 〇二・二二二・一〇八四

（地下鉄東西線バスセンター前駅六番出口より徒歩三分）



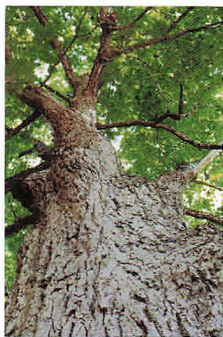
神宮の桜

境内の桜は、明治八年に福玉仙吉が島義勇の御霊を慰める為に参道両側に献植されたことにはじまる。現在エゾヤマザクラ、ソメイヨシノヤエザクラ等約千百本あり、札幌の桜の名所として親しまれ開花の季節五月には、多数の参拝者で賑わっている。



小動物の楽園

神宮の境内は、杉・檜をはじめオンコ・カシワ・ナラ等の針葉樹・広葉樹が混在して生い茂り豊かな緑に恵まれている。その中で、野性のエゾリス・キタキツネ、またアカゲラ・キビタキ・エナガ・ヤマガラ・ヒヨドリ等の野鳥が四季折々姿を見せ、さながら小動物の楽園となっている。



「境内図」



桜 約1,100本
梅 約120本

石碑

- ① 移住七十年記念、松千本植樹記念碑
- ② 福玉仙吉献桜百五十株記念碑
- ③ 献杉木、千本植樹記念
- ④ 皇太子殿下(昭和天皇)御成婚記念植樹
- ⑤ 開拓三神鎮座百年記念「明治の森」
- ⑥ 御即位十年記念献木(大正天皇)
- ⑦ 吟魂碑

鳳輦庫



- ⑧ 祝還曆、須藤隆城先生
門人桜植樹
- ⑨ 大典記念梅林碑(大正天皇)
- ⑩ 献八重桜植樹
- ⑪ 奉納太々神楽寄金之碑
- ⑫ 御鎮座五十年記念玉垣門記念碑
- ⑬ 皇軍全勝祈祷之碑(日清戦争)
- ⑭ 日露戦役記念碑
- ⑮ 樺太開拓記念碑
- ⑯ 長谷部虎杖子句碑
- ⑰ 白野夏雲顕彰碑
- ⑱ 献植、創立二十周年記念(札専)
- ⑲ 宮崎芳男歌碑
- ⑳ 札幌興風会歌碑(会報1,000号記念)
- ㉑ 中山周三歌碑

北海道神宮

〒064-8505 札幌市中央区宮ヶ丘474

TEL 011-611-0261 FAX 011-611-0264

www.hokkaidojingu.or.jp



※くわしくはホームページをご覧ください。



交通案内

交通機関をご利用の場合

- ◎地下鉄／東西線円山公園駅下車3番出口／徒歩15分
- ◎JRバス／「北海道神宮」停留所下車／徒歩1分
- ◎JR札幌駅→地下鉄さっぽろ駅(南北線)
 - 地下鉄大通駅(南北線から東西線に乗り換え)
 - 地下鉄円山公園駅(東西線)下車／徒歩15分(または上記のバスで)
- ◎JR札幌駅からタクシー／15分

お車を御利用の場合

- ◎道央自動車道[新川IC]から宮の森方面へ
- ◎札幌自動車道[札幌西IC]から宮の森方面へ